

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275100176		
法人名	有)吉田工房		
事業所名	グループホームたんぼぼ		
所在地	焼津市下小田146		
自己評価作成日	平成24年03月15日	評価結果市町村受理日	平成24年5月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康で、ゆったりと生きがいのある生活を！ 理念を基本に、その人らしく楽しく生活できるように支援して行く。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2275100176&SCD=320&PCD=22
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な雰囲気、入居者が自分らしく安心して、落ち着いた日常生活を送る事ができるように職員が積極的に取り組んでおり、入居者との信頼関係が築けて自然体で明るく和やかな雰囲気を作り出している。同じ建物の1階に設置されているデイサービスとの交流があり、入居者とデイサービスの利用者の会話や活動があつて、職員同士も良好な関係が出来ている。火災等の災害時2階から外へ避難できる傾斜が緩やかな滑り台があり、車いすの方も職員が抱いて一緒にすべり、避難時間の短縮が図られている。屋上は網で周りを囲み入居者の危険防止や風で洗濯物が飛ばないように工夫されていて、津波の避難場所になっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成24年3月30日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念がフロア中心に掲げてあり、その中で日々実践に繋ぐよう心掛けている。	事業所独自の理念があり「できる事」を支援して、その人らしく「生きがいのある生活」を援助できるように理念を共有し、ミーティングで実践できているか話し合いをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員会にて、民生委員や町内会長とコミュニケーションをとっている。運営面では、自治会行事に参加させて頂き交流している。	自治会に加入して、防災訓練に参加している。散歩の時には挨拶を交わしたり、町内会の祭りには事業所の前でみこしが止まってくれたり、自治会「中老会」の餅つき大会に場所を提供し、入居者との交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々より相談があった際は、相談にのる様、心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や利用状況、事故やヒヤリハット等を報告している。活発な意見も頂けるので運営に活かされていると思われる。が、家族の参加が少ない為、今後は参加を促して行きたい。	市職員、包括職員、民生委員、町内会長の参加があり、事業所からの報告だけでなく、意見や質疑応答があり話し合いが行われている。家族の参加が困難だったが、4月からは家族の出席予定が決まっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	頻繁にケアマネージャーが市担当者と連絡を取り合っている。運営推進会議、市内施設連絡会等に参加して、意見交換を行っている。	相談員の受け入れや、認定更新の機会等に市町村担当者とのお話で、研修等の情報交換や入居者の困りごとを相談するなどの協力関係が構築できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は、一人対応している為入口の施錠をするが、日中は解放している。一名、家族の要望で事故防止の為、抑制帯使用している。(身体拘束の承諾書有り)	身体拘束の新聞の記事を参考にしたり、市の研修を受け、管理者と職員が話し合う場を設けており、周知徹底を図っている。家族にリスクを説明しているが、要望により止むを得ず行う場合にも、できるだけ拘束時間を短くする配慮をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞、ネット等で、虐待に関する記事を拾い出しボードに掲示したり回覧している。		

静岡県(グループホーム たんぼぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協よりDVDを借りて来て勉強しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ケアマネージャーと管理者が其々の立場から十分な説明を行っている。不安や疑問が少しでも解消されて、安心してサービスを受けて頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンスを行う前に、定期的に家族、利用者、ケアマネ、担当職員、管理者で面談を行い、意見・要望等お聞きし反映させて頂いている。	3ヶ月に1回家族、入居者、職員と一緒に食事を取りながら会話をし、意見や苦情を言いやすい雰囲気を作り、家族の率直な気持ちを聞き取り、具体的に終末期の事についての要望が出されて検討している。デイサービスと共通の意見箱の設置があり、活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、ミーティングや管理者会議を開き職員の意見に耳を傾けている。	毎月実施している職員と管理者のミーティングでは、職員から入居者に合わせて職員の勤務時間を変更したらとの要望があり、検討して対応したり、ボランティアの活動について提案があり取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市立病院などで行われる研修会等には、積極的に参加を促している。法人内での研修は定期的では無いが開催されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に1度、市内施設連絡会に参加している。参加者は、管理者、ケアマネージャーだが今後は、職員も参加させて行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	リスクマネジメント、センター方式を用いて、利用者に向かい合い努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、又はその前の段階で管理者、ケアマネージャーが家庭を訪問し面談を行いニーズをお聞きしている。可能な限り個別の要望を叶える事が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、状態の把握、職員で共有する。その後家族へ連絡して来所して頂き、直接対応する様に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、炊事、掃除等、今、本人が出来る事は、続行して頂き支援していく。その為には見守りをし持ちつ持たれつで、共存している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や来所された際は、職員と日頃の姿を報告し共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来所者を積極的に受け入れている。施設内行事でドライブに出掛けた時は、近所を回ったりして馴染みのある場所を選んでいく。	元職場の人が訪ねて来て、部屋で一緒にお茶を飲んで話をすることがあったり、近所の人が面会に来ることがある。絵手紙ボランティアが来て習ったものを年賀状や暑中見舞い、お礼状を出す時の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席順等、日頃の様子を見ながら関わりがスムーズに行く様、配慮している。		

静岡県(グループホーム たんぼぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相手からの相談には、契約終了後も積極的に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	業務内で、利用者と1対1の時は、親身になり聞き手になり沢山話しをしています。情報は職員で共有している。	入浴時や日頃の会話から、どのように暮らしたいのか、何をしたいのかを汲み取り、気がついた事を書きとめ、職員が共有している。娘の頃に洋裁をしていたことがわかり、意思を確認して、雑巾を縫ってもらうなど、本人の思いに沿うように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、バックグランド等を記入して頂き参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を用いて把握に努めている。カンファレンス、等で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて、5者面談を行っている。	随時全職員でモニタリングをしている。担当する職員が中心となりカンファレンスを行い、本人、家族の意見を聞き取り、ケアマネジャーが計画を作成し、家族に承諾をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	壁面に一日ごとの気づきシートを出し、その都度記入している。これを参考にケース記録に記入し、職員で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り心掛けています。		

静岡県(グループホーム たんぼぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進委員会を通して、防災訓練等に参加して地域の方に協力を得て支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの掛かり付けの病院を受診して頂いている。無理な方は、施設協力医でお願いしている。	入居時に協力医の説明をしているが、全員今までのかかりつけ医に家族同行で受診している。情報は口頭や書面にて提供して結果は聞いている。緊急時は職員が協力医に同行受診し、家族と連絡を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイサービスの看護師に相談、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	退院前のカンファレンスに参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて、掘り下げて家族と十分な話しが出来ていない。現在、重度な方が居ないため緊急性は無いが、今後煮詰めて行かなければならない課題である。	入居時に事業所の終末期の方針の説明をしている。家族は終末期の看取りを希望する人が多くあるが、かかりつけ医との協力体制や、常時医療的ケアが必要な場合など、重度化した場合の具体的な職員との話し合いや研修はされていない。	入居者が重度化していく中で、本人、家族の意思を確認し、終末期ケアのマニュアルの作成と研修の実施に向けて取り組むことに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各自、知識は有るが実践出来るのか不安が残る。応急手当、初期対応の実践訓練を受けて行きたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内、施設内防災訓練に参加して、交流をはかっている。夜間については、まだ行っていない為、地域の協力を得て実践して行きたい。	年4回、津波、火災、地震を想定し避難訓練を行い、2階から職員が入居者を抱き、すべり台を降りる避難訓練を行った。職員が地域の防災訓練に参加はしているが、事業所での訓練に消防署の参加や地域住民の参加は得られていない。	夜間を想定しての訓練や、事業所だけの訓練ではなく、消防署との連携や町内会の協力を得て地域住民との協力体制を築く事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年上の方への対応、尊厳の気持ちを大切に するよう心掛けている。	入居者への声かけは、本人、家族の希望する呼 び方で接していて、職員は目上の人に配慮した対 応に気を付けているが、不適切な場面が見られた 時は管理者、ケアマネジャーが注意している。個人の 情報の記録は目に付かない所に管理され取り扱 いに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	日常の会話等に耳を傾け時間を作り本人と じっくり話し合う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の、状態を見ながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	着替えの際、わかる方には、ご自分で選ん で頂き着替えている。判断が難しい方には、 声を掛けながら、その方らしい服装になる様 心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	見て楽しみ、食べて楽しめるように心掛けて いる。野菜の下ごしらえ、食器の片付け、食 器洗い、拭き上げ等、負担にならないようお 願いしている。	朝夕の食事は職員の手作りで、昼食は副食だけ 系列の施設から届き、ごはん、汁物を作っている。 入居者は野菜の皮むき、テーブル拭き、配膳など 出来る人が参加している。テレビはつけず職員と 一緒に会話をしながら食事をしている。ホットブ レートを使ったおやつを入居者と一緒に作るこ とがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事形態、量等、区別しながら提供してい る。水分摂取は時間を決めて皆さんと会話 を楽しみながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後、実施している。		

静岡県(グループホーム たんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、誘導している。全員がトイレで排泄が出来る。	夜間、転倒予防の為にオムツをしている人以外は昼夜とも、トイレで排泄をしている。職員は排泄パターンに応じた個別の支援をしていて、本人の生活リズムにあった排泄介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	月に1~2回ゆるゆる体操(リンパ体操)を行っている。毎朝、乳酸菌飲料を飲んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	水・日以外、入浴して頂いている。今後は、冬場の入浴時間を変更していきたい。	入居者は一日置きに入浴していて、入浴時間は体調や本人の希望を取り入れて午前、午後のどちらかで入浴している。入浴拒否のある入居者には時間を置いたり、入浴を誘う職員を変えて対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内温度、体温調節(湯たんぽ使用)等工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の為、一包化にし呼称し与薬している。塗り薬に関しては、効能、副作用等を表にして。職員の見える所に掲示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自発的に活動している。逆に何かすること無い?と問いかけられる日もあります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の店に散歩しながら出掛けたりしている。施設前に公園が出来たので、近所の子供たちとも交流がもてそうです。	入居者が交代で職員と一緒に近くの公園や、土手に散歩して野の花を取って来て、テーブルに飾るなどしている。家族の協力で墓参りをした後外食をしてることがある。月に1度は全員でドライブに出かけていて、吉田公園や岡部のコスモス畑に弁当持参で花を見に行っている。	

静岡県(グループホーム たんぼぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	しているとは、言い難い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自作の絵手紙で家族や親族宛てに手紙を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と毎日の掃除で、清潔に心がけている。四季折々の壁画で、季節感を味わって頂いている。月行事に役立てている。	小さな鉢植えや職員と一緒に作った、桜の貼り絵が居間に飾っており、季節感が感じられ明るい雰囲気がある。音に敏感な入居者の為に音楽や音に配慮があり、その場に合わせて音楽を流している。誰でも使えるスペースには畳が敷いてあり、入居者が職員と一緒に洗濯物をたたんだり、書き物をする生活の憩いの場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には、椅子、ソファを置きゆったり座り、思い思いの時間を過ごせる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に居た時の物を今でも使用している。布団、枕、写真(孫、友達、家族、亡妻)本等で、居心地良く暮らして頂けるよう心掛けている。	ベットとタンスは事業所で用意し、布団や椅子など思い出の物が持ち込まれ、家族の写真や人形などが飾られている。入居者の各部屋には、思い思いののれんが飾られて温かい雰囲気をかもし出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	いつも目にする物の配置は、定位置にしている。掃除用具、洗濯干し等、環境は変えない様にしている。		